



遊びから学ぶ

校長 早川 修一

例年になく長い期間咲いた桜も、すっかり葉桜となり、新緑が目まぶしい季節となりました。新しい年度が始まり1か月がたち、1年生も学校生活に慣れてきた様子が伺えます。

さて、向山小学校には、「休み時間は、校庭で元気よく遊ぶ」というきまりがあります。オランダの歴史学者ホイジンガーは、「人間は遊ぶ存在である」という有名な言葉を残しています。ドイツの哲学詩人シラーは「人間は遊ぶとき最も人間的である」と言っています。日本の教育者の中にも「子供の遊びは、学びである」と考えている人たちがたくさんいます。

遊びの特性としては、楽しい・自由・自発的・自己目的的等が挙げられます。これらの言葉は、ある面では教育の目標を示す言葉と考えることもできます。「楽しい」ということが、遊びの魅力を構成する最大の要因であり、さらに「自由」もあるのです。他人に強制されたり拘束されたりすることも少なく、能動的な活動なのです。言い方を変えると、子供は遊びによって自主性を回復し、人間としての主体性を保持できるということなのです。教育において遊びが重視されなければならない理由もここにあるのです。

ところが、遊びが非常に大事であるにもかかわらず、遊びを保証する環境はどうなっているのでしょうか。よく子供の環境を「三間（仲間・空間・時間）」といいますが、最近はこれら「三間」の減少により、子供にとっての豊かな環境は消失し、遊びが伝承しにくい環境になっているのです。特に、ボール遊びが許されている公園は、極めて少なくなっています。練馬区全体の体力・運動能力状況調査の結果を見ても、「ソフトボール投げ」だけが低下を続けている状況です。

改めて見渡せば、放課後のボール遊びを保証する場所は学校しかないといっても過言ではないでしょう。幸いにも向山小学校には、ねりっこクラブによる校庭開放が、学校のある日は毎日実施され、たくさんの子供たちが楽しそうに遊んでいます。より多くの子供たちが校庭開放を利用し、遊びを通してたくさんのことを学んでくれることを願っています。

【学校連絡メール】の登録はもうお済みですか？



4月初めに、【学校連絡メール】の登録についてお願いしたところですが、まだ登録率が低いようです。2年生以上で昨年度登録いただいたご家庭も、今年度、新たに登録していただかなければなりません。「災害」「防犯」その他行事等の緊急情報をメールで配信させていただきますので、登録にご協力をお願いします。

